

事業実施報告書

事業名 介護者および介護職員のメンタルヘルスケアの支援推進事業

1 事業の目的

埼玉県における高齢社会の急速な進展のもと、高齢者介護施設の現場では慢性的な人手不足の常態化、介護職員特に若手の介護職員の定着が進まないという課題を抱えており、離職の原因の一つは個人の抱えるストレス特にここ数年のコロナ禍でのメンタルヘルスケアにあると思われる。ケアする人を取り巻くより良い環境づくりに取り組み、生き生きと働くことができる介護現場を目指し、高齢者介護の知識の習得等の支援を推進することを目的としました。

2 事業内容

(1) 事業の概要

当協議会の理事会は施設経営者、介護施設管理者、現場の認知症介護指導者の資格を持つ職員等によって構成されており、その理事会において事業のより効果的な推進方について検討を行った。

介護職員向け

ストレスの要因となっている「知識不足」の解消

- ・高齢者の身体的・心理的な状態の理解
 - ・認知症の基礎知識や介護の基本の知識習得
 - ・何が虐待になるのか、高齢者虐待防止の知識習得
 - ・ベッドから車いすへ等々、身体介助の基礎
 - ・アンガーマネジメント、
 - ・ストレスマネジメント
- 等々の研修を実施することとした。

「繋がり不足」の解消

- ・オンラインにより、遠隔地からの参加の制約や、人手不足からこれまでのような集合研修には複数人の参加ができないなどの課題を解消する。また自宅からも受講することができるよう、主として業務終了後の夜間の研修とした。
- ・埼玉県の介護現場、現状を理解した、県の資源でもある「埼玉県認知症介護指導者」を主体とした研修講師陣とした。

在宅介護者に向けて

ストレスの原因となっている介護知識の習得

- ・認知症介護のポイントは認知症の理解
- ・アンガーマネジメント
- ・こころの健康のためのストレスマネジメント

ヤングケアラー向け

本人よりも関わる周辺の理解と対応について

- ・ケア経験者の話を聞くことによる課題の抽出

(2) 事業の流れ

令和5年6月

理事会において事業推進の会議開催・検討内容

- ・オンラインにて講演会および研修会を開催
- ・研修内容について
 - ・ストレスの原因の一つに認知症介護の基礎知識の欠如
 - ・高齢者虐待防止の研修が必須
 - ・身体介助の基本・基礎の復習研修
 - ・事業所における感染症クラスター対策
 - ・アンガーマネジメント、ストレスマネジメント

協議会定時総会において事業展開を発表

令和5年7月

関係協力機関との打ち合わせ

- ・認知症の人と家族の会・・・介護者向けの講演について
講演内容、講師選定打ち合わせ
- ・さいたまNPOセンター・・・ヤングケアラー支援について
課題の抽出方法等打ち合わせ

事業執行実績

	開催日時	講演・研修のテーマ	講師	参加
1	7月13日 18:00~19:30	認知症介護の基礎知識(介護職員が知識不足からケアに行き詰まりストレスになる)	山田茂氏 埼玉県認知症介護指導者	29名
2	8月10日 18:00~19:30	認知症介護の基礎知識(介護職員が知識不足からケアに行き詰まりストレスになる)	山田茂氏 埼玉県認知症介護指導者	27名
3	8月16日 ~8月31日	身体拘束廃止および高齢者虐待防止(介護職の不適切な関わりを防止)YouTube配信	荒井宏一氏 埼玉県認知症介護指導者	729回 受信
4	8月23日 18:00~19:30	介護事業所感染症対策セミナー(コロナ禍の拡大防止策、介護職の負担の軽減)	朝倉智美氏 感染管理認定看護師	32名
5	9月14日 18:00~19:30	認知症介護の基礎知識(介護職員が知識不足からケアに行き詰まりストレスになる)	山田茂氏 埼玉県認知症介護指導者	23名
6	10月5日 18:00~19:30	アンガーマネジメント(イライラ介護からイキイキ介護へ)	南美詠子氏 日本アンガーマネジメント協会	44名
7	10月12日 18:00~19:30	身体介助の基本・基礎知識(ベッドから車イスへ等の介助の基礎を学ぶ)	小川廣大氏 理学療法士	25名
8	11月2日 18:00~20:00	高齢者虐待防止研修(長瀬町・秩父地区連携、会場参集長瀬町役場会議室)	岩本かおり氏 埼玉県認知症介護指導者	41名 (会場)
9	11月9日 18:00~19:30	身体拘束廃止および高齢者虐待防止(介護職の不適切な関わりを防止)	荒井宏一氏 埼玉県認知症介護指導者	57名

10	11月28日 14:00~16:00	ヤングケアラー体験講演(ヤングケアラーを流行り言葉で終わらせないために)	町 亞聖氏 フリーアナウンサー	46名 会場参集 ・Zoom
11	11月30日 14:00~16:00	どうすれば信頼される福祉リオーダーになれるか(働きやすい易い場づくり)	久田則夫氏 日本女子大学 教授	32名
12	1月21日 14:00~15:30	認知症介護のポイントは認知症の理解から(在宅で介護されている方へ)	認知症の人と家族の会 副代表 花俣ふみ代氏	11名 (会場)
13	1月21日 15:40~17:00	アンガーマネジメント研修(在宅で介護されている方へ)	南美詠子氏 日本アンガーマネジメント協会	10名 (会場)
14	2月8日 18:00~19:30	介護職員のためのメンタルヘルスケア(こころの健康講座)	南美詠子氏 日本アンガーマネジメント協会	33名
15	2月15日 18:00~19:30	身体拘束廃止および高齢者虐待防止(介護職の不適切な関わりを防止)	荒井宏一氏 埼玉県認知症介護指導者	15名



地域連携 長瀬会場 集合研修 (R4.11.2)



地域連携 長瀬会場 集合研修 (R4.11.2)



ヤングケアラー体験講演（ヤングケアラーを流行り言葉で終わらせないために）（R4.11.28）



ヤングケアラー体験講演 町亞聖氏
オンラインおよび会場にて（R4.11.28）



認知症介護のポイントは認知症の理解から
（在宅で介護されている方へ）（R5.1.21）

（3）連携・協力機関

- ・公益社団法人 認知症の人と家族の会埼玉県支部
- ・さいたま NPO センター
- ・地域連携 長瀬町健康福祉課
- ・日本アンガーマネジメント協会
- ・一般社団法人埼玉県民生委員・児童委員協議会

3 成果及び今後の展開

○実施事業の成果

- ・コロナ禍であったため、オンライン **Zoom** にて研修を行った。これまでの会場参集の介護職員向けの研修では、遠隔地からの参加は職員不足の現状から参加が厳しい状況であったが、オンラインにより複数人の研修参加が可能になったとともに、事業所のみならず、自宅からの受講もできるようになった。
- ・メンタルヘルスケアの必要性を鑑みるに、ストレスの原因となっている要因の多くは、認知症介護の知識不足からくるものとのアンケート結果から、より多くの介護職員が受講する機会を持てた。
- ・埼玉県のリソースである「埼玉県認知症介護指導者」を有効活用できる機会を持つことができた。
- ・介護全体の課題である「高齢者虐待防止」について、増加傾向にあるとの厚労省の報告から急遽複数回の研修を実施することができた。

○見えてきた課題と今後の展開

- ・オンライン利用についての事業所格差を解消し、一定レベルで活用できる啓発が必要であると思われる。
- ・在宅での介護者の認知症介護への理解を啓蒙する機会をもつために、連携先の拡大を図る必要があると思われる。
- ・ヤングケアラーの支援について、今回経験者町亞聖氏の講演会を開催し課題は見えてきたが、ケアラーに関わる周辺の方々の支援の有機的な連携を具体的にどのように進めていくのか今後の課題と思われる。

ヤングケアラーとの関わり



- ・学校関係者 教諭・スクールカウンセラー
- ・介護されている家人に接触している
訪問ヘルパー、ケアマネ、訪問看護師等

○どのような支援ができるか

- ・現在の介護保険では、訪問ヘルパーがヤングケアラー本人への直接の支援ができない（介護報酬等の問題）、
- ・介護保険の枠外で、ヘルパー等がかかわることができる仕組みづくりが必要と思われる。